すゝめ

患者さんと慶應義塾大学病院をつなぐ
コミュニケーションマガジン

KEIO UNIVERSITY HOSPITAL
Communication Magazine

Vol.01
Spring 2017

ご自由にお持ちください

100 since 1917 Keio University School of Medicine
医学部開設100年記念

慶應義塾大学病院広報誌

創刊にあたって

このたび、医学部開設一〇〇年という節目の年に、広報誌「すゝめ」を創刊するはこびとなりました。慶應義塾の創立者 福澤諭吉の建学の精神と、初代医学部長・病院長 北里柴三郎が説いた「基礎・臨床一体型の医学・医療」を実践し、「患者さんに優しく患者さんに信頼される患者さん中心の医療」を理念に掲げ、日々安全で質の高い医療の提供を目指し邁進してまいりました。おかげさまで、私どもの取り組みは、高度先進医療を担う「特定機能病院」に加え「臨床研究中核病院」の承認を得るなど着実に実を結んでいます。

しかしながら、医療は日進月歩で進化しており、最適な医療を行うためには、患者さんとの信頼関係はより重要なものとなります。二〇一八年五月にオープンする新病院棟の建設を皮切りに、次の一〇〇年に向けた新しい病院づくりへと病院スタッフが心をひとつにして積極的に機能改革を進めています。そんな私どもの今とこれからを分かりやすくお伝えし、患者さんとのコミュニケーションをより円滑に推進するかけはしとなるのが、この「すゝめ」です。新しい取り組みも積極的にお知らせしてまいります。どうぞ、ご期待ください。

慶應義塾大学病院
病院長
竹内 勤

広報誌タイトル「すゝめ」とは

タイトルは明治5年から9年にわたって出版された17編を数える福澤諭吉の大ベストセラー『学問のすゝめ』に因んでいます。

慶應医学一〇〇年

これまでも これからも

慶應義塾福澤研究センター提供

真に人々のための医療をめざして

有効性と安全性を科学的に、かつ一歩ずつ確実に確かめる高度な臨床研究を積み重ねる必要があります。当院は二〇一六年に私立大学病院として初めて、医療法に基づく「臨床研究中核病院」として承認され、国際水準の臨床研究や医師主導治験の中心的な役割を担っています。慶應医学として一〇〇年にわたって育まれた基礎・臨床一体型医学・医療の取り組みが、未来の先端医療を実現する大きな礎となっています。慶應義塾大学病院では、これからの一〇〇年も、真に人びとのための医学・医療を追求、体現しながら、患者さん中心の医療の提供に努めてまいります。

基礎・臨床一体型医学・医療の実現

今から一〇〇年前、慶應義塾を創立した福澤諭吉の遺志を受け継ぎ、世界的な細菌学者である北里柴三郎が初代医学部長（のちに初代病院長を兼任）となり、慶應医学は歩みをはじめました。北里は当時の医学界が陥っていた各科ごとの分立による弊害を排するために大教室制ともいえる組織を導入し「基礎・臨床一体型医学・医療」の実現をめざしました。学問的な研究を行う基礎医学、直接患者さんを診療するための臨床医学。北里はこの二つが一体となることが、真に人びとのための医学・医療につながると考えました。

それから一〇〇年、幾多の先人たちがこの志を継承したことで〝臨床に強い〟慶應医学が発展しました。医学部では一万人近い卒業生を輩出し、現在では慶應義塾大学病院と約百の関連病院によるネットワークを通じて、質の高い医療人の育成や、先端医療の普及に努めています。

また、当院で診療を行なう医師は自身の技量を高めるとともに、フィジシャンサイエンティストとして医学研究にも取り組んでいます。基礎研究の成果を臨床に、臨床での気づきを基礎研究に結びつけることで、医学・医療の発展につながる数々の国際的な研究成果や、日々の診療をささえる医療技術を生み出してきました。

これからの一〇〇年に向けて

近年、患者さん一人ひとりに最適な治療方法を計画する個別化医療やiPS細胞を用いた再生医療など、さまざまな領域で革新的な医療が現実のものになろうとしています。しかし、これらの成果が実際に医療の現場において用いられるためには、その

慶應義塾大学病院の理念

- □ 患者さんに優しく患者さんに信頼される患者さん中心の医療を行います。
- □ 先進的医療を開発し質の高い安全な医療を提供します。
- □ 豊かな人間性と深い知性を有する医療人を育成します。
- □ 人権を尊重した医学と医療を通して人類の福祉に貢献します。

2017年4月現在

1920年開院当時

かけはし

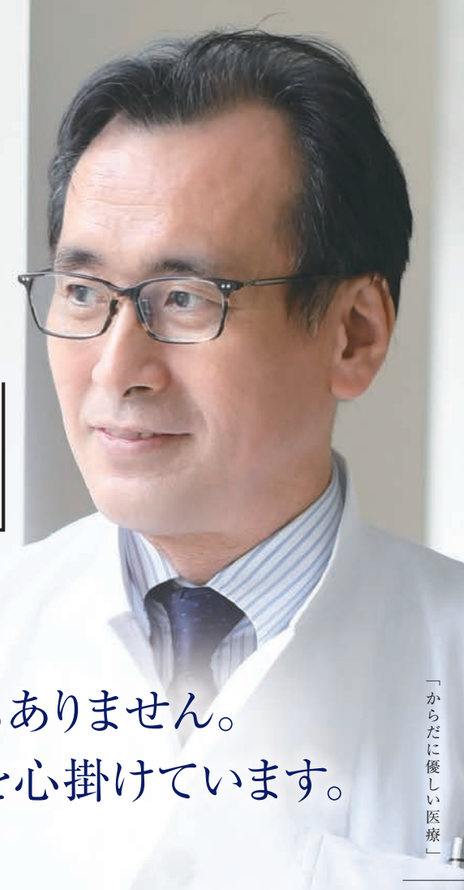
基礎から臨床一体という慶應医学の精神

100年前、初代医学部長の北里柴三郎博士は、基礎研究で培った知識や技術を、臨床の現場に応用する「基礎・臨床一体型医学・医療の実現」を、慶應義塾大学医学部の指針として掲げました。その伝統は現在まで絶えることなく受け継がれてきました。私ども慶應義塾大学病院臨床研究推進センターは、このような慶應の伝統に基づき、患者さんの安全と安心を第一に考え、新しい薬剤や医療機器の開発と適正な臨床試験の実施を支援するための組織として平成26年に開設されました。医学・医療は飛躍的に進歩し、昔は不治の病と呼ばれていた病気も、その多くが治療できるようになってきました。しかし、私達はそれに満足することなく、センター員一丸となり日夜たゆまぬ努力を重ねています。私たちは基礎研究で得られた種（シーズ）を臨床に素早く持ち込み、新たな医療へと展開し、そして定着させることを使命と考えています。そして一日も早くより安全で良質な医療を提供できるように、そしてそれが世界の人々の幸福に繋がるように、これからもチーム全員で全力を尽くす所存です。

副病院長
臨床研究推進センター長
佐谷 秀行
主な研究領域：腫瘍生物学

「からだに優しい医療」

～ここまできた低侵襲治療～



人間の臓器で不要なものは一つもありません。
残せるものは残し、最小限の切除を心掛けています。

副病院長・腫瘍センター長　北川 雄光

低侵襲とは

「低侵襲」とは難しい言葉ですが、医学用語で〝身体にとって害のあること〟を侵襲（しんしゅう）と言います。手術であれば身体にメスを入れること、薬であれば副作用の可能性も含めて〝侵襲〟と言います。低侵襲治療とは、この侵襲の度合いをできるだけ低くする治療のことです。例えば、内視鏡や腹腔鏡を使って、可能な限り小さな創で腹部の手術を行うことや、血管を通るカテーテルを用いた治療を行う方法など、身体に入っていくアプローチの仕方を変えることで低侵襲治療を行っています。加えて、臓器が持つ機能を損なわないように最小限の切除で済むような治療も低侵襲と言うことができます。

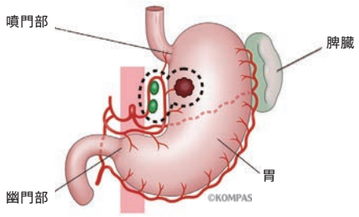
全国に先駆けて、究極の低侵襲手術を導入

当院の腫瘍センターでは、乳がんなどの手術で一般に行われているセンチネルリンパ節生検を、胃がん手術に全国に先駆けて応用し、「胃がん手術の縮小化」に取り組んでいます。がんが最初に転移するのがセンチネルリンパ節で、これを特定することで転移の有無が確認でき、これまで胃切除が行われていたケースでも、大きく残すことが可能となります。この「早期胃がんに対する腹腔鏡下センチネルリンパ節生検」は、厚生労働省より先進医療に承認され、注目を集めています。リンパ節転移のない早期胃がんを正確に選別し、消化管腫瘍の低侵襲治療が専門の矢作直久によるESD（内視鏡的粘膜下層剥離術）の手法を応用して、胃壁の外側と内側を慎重に観察しながら、切除範囲を最小限にするという新しい手術方法を導入しています。

低侵襲こそ患者さん中心の最先端治療

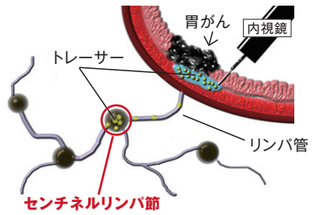
今日のような低侵襲治療が可能になった背景には、医療技術・機器の飛躍的な発展により、これまでできなかったことができるようになったことが挙げられます。加えて、画像技術の劇的な革新により、いままで見えなかったものを可視化する技術が目ざましい進化を遂げています。当院においても、X線透視装置、超音波画像、CTを駆使したカテーテルによるEVT（血管内治療・手術）やIVR（画像下治療）を積極的に導入し、ハイブリッド手術室（手術台と心・血管X線装置を組み合わせた手術室）も完備しております。金属の骨格構造を持つ特殊な人工血管をカテーテルにより留置するステントグラフト内挿術、人工心肺を用いず胸骨を全切開しない低侵襲心臓手術や、経カテーテル大動脈弁置換術、強度変調放射線治療（IMRT）、子宮がんに対する腟内照射、前立腺がんに対する密封小線源療法（シード治療）など、患者さん中心の医療として、身体にやさしい最先端治療に意欲的に取り組んでいます。

胃がん縮小手術（局所切除術）

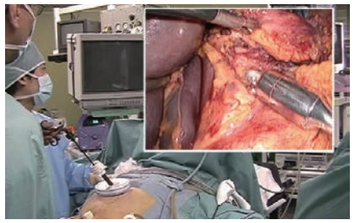


センチネルリンパ節生検で転移がないことが確認されれば、従来胃切除が行われていた患者さんの胃を大きく残すことが可能となります

早期胃がんに対するセンチネルリンパ節生検の方法



早期胃がんに対する腹腔鏡下センチネルリンパ節生検の様子



医療・健康について やさしく紹介する情報サイト

KOMPAS

http://kompas.hosp.keio.ac.jp

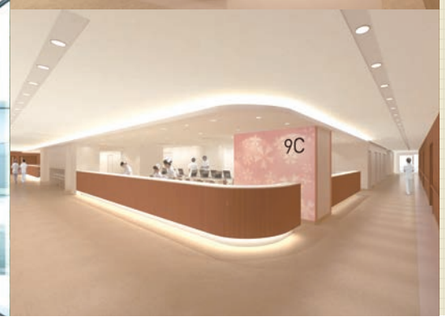
慶應コンパス　検索

「KOMPAS」は慶應義塾大学病院の医師、医療専門家によるオリジナルコンテンツ約700件からなる医療・健康情報ウェブサイトです。病気・検査・くすり・栄養に関する記事を読めるだけではなく「あたらしい医療」「慶應発サイエンス」といった慶應医学・医療の最先端に触れることができます。2号館1階外来にある「健康情報ひろば」のパソコン、ご家庭のパソコン、スマートフォンなどからご利用ください。

医師、医療スタッフが作成したオリジナルの医療・健康情報をぜひご活用ください。

冊子をお好みでしたら「健康情報ひろば」の図書・雑誌・パンフレットが便利です。月曜～金曜の午前9時～午後3時の間は、情報探しのお手伝いをするスタッフがいます。どうぞお立ち寄りください。

患者さんに寄り添う医療をめざした新病院棟



新たな病院棟建設構想

- ☑ 2010年 基本構想開始
- ☑ 2012年　8月 3号館南棟稼動
- ☑ 2015年　5月 1号館1期棟稼動
- □ 2018年　5月 1号館2期棟稼動

NEXT VISION

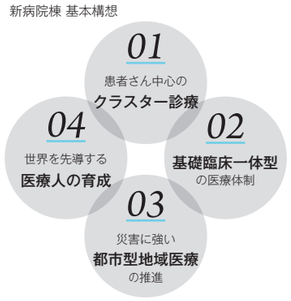
- □ 2020年　春 外構部完成

2018年5月の稼働を目標に新病院棟を建設しています

患者さんにより安心いただける慶應病院をめざして

慶應義塾は次の一〇〇年を見据え、患者さんにより安心して診療を受けていただける病院をめざし、新しい病院棟である慶應義塾大学病院1号館を建設中です。新病院棟では「患者さん中心のクラスター診療」「基礎医学と臨床医学が一体となった医療体制の構築」「災害に強い都市型地域医療の推進」「世界を先導する医療人の育成」という4つの基本構想を柱として掲げております。

新病院棟 基本構想



各科外来診察室の他に、手術室、救急外来、一般集中治療室など病院の主要な機能をこの新病院棟に移転させます。地下1階、地上10階建ての新病院棟は、広さも慶應義塾大学病院2号館の約2倍と、患者さんにとっても快適な空間を確保しています。診察室も多く有しており、患者さんにも安心してご利用いただける病院となっています。また、免震構造設計を採用しているため、万一の震災の際にも安全です。二〇一八年五月の稼働をめざし、現在着々と準備を進めています。

新病院棟開設準備室長
渡辺 真純

診療科の壁をこえたクラスター診療

一般的な病院の場合、従来からの内科・外科といった単位に分かれていました。その枠組みを超えて、消化器、循環器などの臓器単位、腫瘍センターや周産期センターといった枠組みで治療を推進する体制のことを当院では「クラスター診療」と呼んでいます。医師、看護師、薬剤師をはじめとしたすべての職種が協力し、質の高いチーム医療を展開することができ、各診療科が持っている高度な専門医療を総合的に提供することが可能となります。例えば、腫瘍センターでは、患者さんに関する全ての情報が集まり、患者さんごとにディスカッションしながら外科手術、化学療法、放射線治療などの治療方針を検討していきます。新病院棟のフロアレイアウトもこの考え方を反映し、クラスターや機能ごとに外来をブロック化しています。腫瘍センターの周囲には、消化器クラスター、呼吸器クラスター、血液内科、泌尿器科などがんに関連した各科の外来を配置し、情報共有がより緊密におこなえるよう配慮しています。

今後の掲載予定

今後の誌面では、
新病院棟の情報を随時掲載していく予定です。

- 診療科の壁を越えるクラスター診療（今号）
- 外来待ち時間短縮に向けた受付・会計方法や予約方法の改善
- 病棟のアメニティー向上と、プライバシーの確保
- 新病院棟への移転時の病院への入り方の変更などのお知らせ

病院にかかる際の様々なご相談に応じる窓口

「総合相談窓口」のご案内

総合相談窓口では、専門のスタッフ（看護師、医療ソーシャルワーカーなど）が様々な「疑問」「お悩み」「不安」など、少しでも解消できるようお話しを伺い、アドバイスや関連する情報などを提供させていただいています。予約等は必要ありませんので、お気軽にお立ち寄りください。

相談内容によっては、お時間をいただいたり専門領域のスタッフが対応する場合があります。

総合相談窓口入口

場所
正面玄関フロア

受付時間
午前8時40分～
午後4時30分
（休診日を除く月～土）

お問い合わせ
03-5363-3638
（直通）

専門的なご相談も受けています

- 難病や療養に関する相談
- がんに関する相談
- 治験・臨床研究・患者申出療養に関する相談
- 医療安全に関する相談

など

たとえばこんなご相談をいただいています

- 診察の時に聞いた言葉の意味を知りたい
- 治療を受ける上で心配なことがある
- 医療費や各種制度について知りたい
- 医療費や支払いのことが心配

など

慶應義塾大学病院Q&A

Q 病院に対する要望があるのですが、相談窓口で直接お話しする以外方法はあるのでしょうか。

A 院内24ヶ所（外来、病棟入口・エレベーターホールなど）に「ご意見箱」を設置してありますので、ご利用ください。

Q この広報誌への意見や感想は、どこに知らせたら良いですか?

A 「ご意見箱」横に備付けの「ご意見・ご要望」用紙にお書きいただき「ご意見箱」に投函してください。

Q 回答はどのようにしてくれるのですか?

A 直接お答えする場合もありますが、回答書の掲示や、この広報誌の誌面を利用して回答しています。掲示板は、正面玄関に向かって右側に設置してあります。

Q 何か病院のお手伝いをしたいのですが、ボランティアなどを募集していませんか?

A 入院患者さんの買い物のお手伝いや、来院される方の手助けなど、患者さんに寄り添う活動をボランティアにお願いしています。応募方法などは、当院のホームページでご確認ください。

Information

「患者サロン」開催

患者サロンは、がん患者さんとご家族、ご友人を対象としたセミナーや交流会を定期的に開催しています。どなたでも、ご参加いただけます。（参加費・無料）

開催日	テーマ	講演	交流会	時間
5月17日（水）	がん治療と薬	○	○	午後2時00分～午後4時00分
6月24日（土）	がん治療と就労		○	午前10時00分～午前11時30分
7月12日（水）	がんと心のケア「マインドフルネス体験」	○	○	午後3時30分～午後5時00分

「夏休みキッズ探検隊」参加者募集

子育て世代のがん患者が増加する中、がんの親を持つ子どもをサポートする活動のひとつとして、子どもたちに「がんという病気や治療について知ってもらう」、「同じような体験をしている子どもたちを知ってもらう」ためのプログラム「夏休みキッズ探検隊」を開催いたします。（参加費・無料）

開催日	時間
7月22日（土）、8月26日（土）	午後1時30分～午後3時00分

※両日とも同じ内容なのでご都合の良い日にご参加ください。

お申し込み・お問い合わせ　がん相談支援センター　03-5363-3285（直通）

! お薬の待ち時間が短くなりました

お薬の受け渡し時間短縮のために、3月21日から「お薬引換券番号の表示」と「お薬の受け取り方法」が変わっています。薬剤部窓口横に設置されている「お知らせ」でご確認ください。診察室など院内各所でも掲示しています。

挨拶からはじめる病院づくり《挨拶・声かけプロジェクト》

当院では病院スタッフが正面玄関に立ち、朝の挨拶運動を行っています。

この運動をはじめて、どのような不安を覚えて来院されているか、何に困っていらっしゃるかなど、挨拶を通したコミュニケーションの中で患者さんの気持ちに寄り添うことができるようになったと実感しています。

外来や病棟など院内のいたる所に広げていけるようにこの運動を推し進めています。お困りの際はこちらからも声をかけさせていただきますが、「忙しそう」「声をかけていいのかわからない」と思われても、どうぞ遠慮なさらずにお声をかけていただければと思います。

これからも病院スタッフ一人ひとりが意識して「挨拶」「声かけ」を実践し、患者さんとの信頼関係を深めてまいります。

〈受付時間・休診日〉

外来受付時間	午前8時40分～午前11時00分
面会時間	（平日）午後3時00分～午後7時00分 （土・休日）午後1時00分～午後7時00分
休診日	日曜日、第1・3土曜日 / 国民の祝日・休日 / 年末年始（12月30日～1月4日）/ 慶應義塾の休日（1月10日、4月23日）

〈診療担当医表〉

このQRコードをスマートフォンなどで読み取っていただくと診療担当医表がご覧になれます。なお病院入り口脇の電子掲示板にも掲載しています。

「す>め」Vol.01　2017年4月25日発行　編集・発行／慶應義塾大学病院広報誌編集チーム
慶應義塾大学病院 〒160-8582 東京都新宿区信濃町35番地　03-3353-1211（代表）　URL: http://www.hosp.keio.ac.jp/